

令和3年度 福島区区政会議(第2回全体会)でいただいたご意見と対応方針一覧

番号	委員名 (所属団体等)	ご意見内容	会議での回答内容	回答課	対応方針
1	宮本委員 (地域活動協議会(鷺洲)) ・ 中村委員 (地域活動協議会(上福島))	保育所が区内で不足しており、やむなく引っ越しをする人もいと聞いた。 その他、幼い子どもがいると大変なので、区役所で若い親を支援する事業ができないか。	保育所の入所状況については、以前に比べると落ち着いてきたが、今後の需要をふまえて関係局と調整しながら整備を検討していく。 また、若い親の支援について、区役所における子育て支援事業として「赤ちゃん広場」を開催し、親同士の交流を促したり、保育士や保健師などに育児の悩みや心配ごとを相談できる場を設けている。さらに、「ハッピーママ」「プレママ」といった事業で産後のイメージづくりや、産後の母親の健康づくりなどにも取り組んでいる。	保健福祉課(子育て教育) ・ 保健福祉課 (保健)	区政会議での回答のとおり、引き続きニーズを把握しながら子育て支援事業をすすめていきます。
2	中村委員 (地域活動協議会(上福島))	子育ての支援について、上福島地域から区役所へはかなり距離があるため親子連れでは行きづらい。あいあいセンターも同じである。区役所で、各地域で開催されているサロンの状況等は把握しておいてほしい。 また、いつでも子育ての相談ができるように専用の「ホットライン」を開設してほしい。 子どものいる家庭で転入された方は、子育て支援の情報は知らないのではないか。	区内には、本市事業の「つどいの広場」「子ども子育てプラザ」「子育て支援センター」や地域の方々が開催する「子育てサロン」など、区役所以外にも親子が集える場所がある。コロナ禍での活動に制限があるものの、親子が交流し、つながりを感じられるような場所として、行きやすい所を利用していただきたい。 区役所には子育て支援室が設置されているので昼間はそちらで相談していただける。また、大阪市では、こども相談センターの24時間ホットラインやLINEでの相談も実施しており、広報紙でも周知している。福島区独自の子育て専用「ホットライン」の開設は難しいので既存の大阪市の事業をご利用いただきたい。 転入された子育て世帯の方には、子育て支援施設や事業のリーフレット、各種案内チラシなどを渡している。既存の事業を活用していただけるように一層の周知に努める。	保健福祉課(子育て教育)	区政会議での回答のとおり、引き続き子育て支援の情報の発信に努めます。
3	岡田委員 (地域活動協議会(福島))	のだぶじの管理について、下福島公園ではせんだに脚立を使ったりして大変である。緑化リーダーにも手伝ってもらえないか？	【緑化リーダーの中村委員】緑化リーダーも高齢化が進んでおり、若い人に協力してもらうのに苦労しているので難しい。	企画総務課(企画推進)	現在、約80名の緑化リーダーボランティアの方がおられますが、高齢化のため活動に参加できない方も多く、現在の緑化活動を継続することが精一杯の状況であり、他の活動をお手伝いすることは困難な状況です。
4	中村委員 (地域活動協議会(上福島))	「人と人とのつながり」について、地域の活動で集まるのは古くからの住民ばかりでマンション居住者は顔も知らない。知り合う手掛かりもないが、区役所としてはどう考えているか？	ご指摘の件は、区役所としても課題と認識している。地域によっては町会加入を積極的に勧めているが、なかなか順調ではないと聞いている。区役所も地域と連携して課題の解決に取り組んでいきたい。	市民協働課(市民協働)	区政会議での回答のとおり、今後とも、地域の活動や町会加入の促進について支援していきます。
5	岡田委員 (地域活動協議会(福島))	福島地域に70年住んでいるが、住みづらいと思ったことがない。北区は高層マンションが多いが、福島区もマンションが増えると落ち着かなくなると思う。人口が増加傾向にあるとのことだが、区としてはどうしたいと考えているのか？	1年間でマンションが10棟以上建つ状況であるが、人口の増加は一概によい、悪いと言えるものではないと考える。あまり人口が増えると環境が変わって、増加も止まるかもしれない。	企画総務課(企画推進)	急激に人口が増加すると日々の生活で課題に直面することも多くなると考えるが、区民のニーズも把握しながら生活環境の改善に努めます。

番号	委員名 (所属団体等)	ご意見内容	会議での回答内容	回答課	対応方針
その他いただいたご意見					
6	塩津委員 (地域活動協議会(海老江東))	福島区への転入者に町会加入の紹介をしてもらっているが、入会には結びついていない。町会の制度が複雑すぎるので整理する必要があると思う。具体的な方策はないが、活動分野も多くて若い人が嫌がる。また、書面連絡が基本であり、デジタル化が進んでいないことも若い人が参加しない一因ではないか。世代交代が進むような環境づくりが必要である。			
7	中村委員 (地域活動協議会(上福島))	校区変更で上福島小学校の児童が増えている。通学路の一部である福島公園周辺で工事があると聞いているが、子どもの安全のために一方通行にしたうえでガードレールを設置できればよいと思う。			
8	宮本委員 (地域活動協議会(鷺洲))	地域活動の一つである「高齢者食事サービス」について、配偶者が要介護のため来れないと言われた。こんな時に配偶者の方も一緒に来れるような対応ができればよいと思う。			